

---

# 暗闇の中の自分

扉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

暗闇の中の自分

### 【Nコード】

N1422I

### 【作者名】

扉

### 【あらすじ】

生まれ持っていた性格から、病を引き起こし、事故の後遺症からの精神的な病の実話です。

## 完治できない病（前書き）

今回小説などとても苦手な事に挑戦させてもらいました。作文などとても苦手な私がちよっといいえ、大分頑張って投稿させてもらいました。読んで頂いて、私の病、辛さ苦しさが伝われるか、心配ですが、是非読んで見てください。

## 完治できない病

今、私はちょうど、折り返し地点の所まで来ている所でしょうか？  
色々な病気と出会ってしまった、闇の中の自分をお話させて頂きま  
す。

元々、変なところに神経質にしすぎて、自分自身を病んでしまわ  
せるところがある私は、太ってる、デブと、姉妹に冗談混じりで、  
言われたりすると、食事が喉を通らなくなり、いつしか、何も食べ  
られなくなりもちろん、痩せて、いつしか、食べられるようになり  
また、元に戻る、幼い頃は写真など見ると、痩せている自分、太っ  
てる自分とそんな写真ばかりです。

幼き頃、こんな事件に出くわせ、その事件がきっかけで、いまだに、  
尾を引いている病がまず一つあるんです。

ご近所のおばさんが、カレー味のロールキャベツを沢山作りすぎた  
ので、食べてと、お裾分けに持って来てくれました。その頃は食欲  
旺盛の時期、なぜか、食べていたら、皆が、ちよつと美味しくない  
よ！？と・・・私は一人で黙々と食べていたんです。その後夜中に  
事件がおきました。

そうなんです。今で言う、食中毒ですね。夜中気持ち悪くて、寝て  
いられず、一晩中吐きまくっていました。その事が原因で、いまだ  
に、気持ち悪くなくても吐けない病気にいまだに、苦しんでいます。  
これは、嘔吐恐怖症と言われている様です。かれこれ、すでに・・・  
・35年ほど過ぎていますが、未だに克服していません。気持ち悪  
くなってもひたすら、我慢酷いときは、鳴きながら我慢、なんとか  
安定剤を飲んで落ち着かせます。安定剤の話は後程に。自分でも  
今考えるとすごい、35年も吐かずに過ごして来たことをこの先い  
つしか、克服する、できる時が来るのか、怖さ不安が考えているだ  
けで苦しくなります。

話しは戻ります。

その後記憶にないので、4、5年は何事もなく、安らかな日々を過ごしていたと思います。

小学生の頃忘れもしない、5年生とても楽しい毎日を過ごしていたと思います。

がそんなとき、そんな頃、大好きだったクラスのお友達に無視されるようになったんです。

悲しかったけど、なぜだか、私はわかってました。

少し？大分？調子に乗って先頭にたつて勝手に昼休みに皆に付き合わせていたことが、皆に嫌がられてしまった。

と同時に、当時大好きだった担任の先生は食べ物を残すのはもったいないと当たり前前の事ですが、そうなんです。

給食は残すと食べるまで残されるんです。

クラスメイトには無視され、精神的に滅入っていた私は給食が食べられなくなっていたんです。

毎日残されて給食とにらめっこ、5時間目の授業が始まって、その時は食べ物見るだけで気持ち悪くて吐くことができな私には残されて恥ずかしくても、食べられませんでした。とうとう、給食だけでなく、お家でも、何も食べれなくなりました。もちろん学校にも行けなくなり、家においても、毎日毎日気持ち悪くて気持ち悪くてとても苦しい日々をどのくらい過ごしていたのか・・・

最初の闇の中にいた頃の自分多分1、2カ月で10kgは体重が減ったと、記憶しています。その時代はクラスメイトも先生も現代とは違い、暖かい心を持っていたんだと未だに皆に忘れることができないくらい感謝しています。毎日朝クラスメイトと先生が迎えにきてくれていたんです。ありがとう。おかげさまでいつしか、学校に通っていました。6年生には体重も戻っていたような記憶です。そして、中学生になり、高校生に進学し、アルバイトを初めました。

生まれて初めての就職かともいいますか？ですよね。

同世代の人達と多分一番楽しかったお仕事だと記憶しています。50ccのバイクの免許を取得し、学校は休んでも、バイトは休まず

勤務してたほど楽しかったんです。一年ちよつとたつた、高校2年生に進級したばかりだった、あのバイトの帰宅途中多分そこで、私の人生はまたまた、悪夢の様に変わってしまった気がします。二度目の闇の中にいた自分です。

何がなんだか、わからずまま、気がつくとも病院のベッドに寝ていました。

1ヶ月以上入院していたでしょうか!?入院していた時間時々の事はほとんど覚えていないんです。

アルバイトにスクーターでいつも通勤してたんです。

当時ヘルメット着用の義務はなく、ノーヘルで狭い道を通って帰宅中対向車をよけて、前からおじいさんが自転車でよけようと思った瞬間道路工事後の段差にハンドルとられ転倒頭蓋骨陥没三日三晩意識不明の重体だったそうです。生きているのが不思議ラッキーだったんです。凄い事なんです、この時の後遺症がなかなかの苦しい日々を送る事となったのだと思います。この事故で楽しかったアルバイトもそして学校も行けなくなりました。退院後3カ月の安静でお家でおとなしくしてました。多分!!

やっと担当医から、学校に行っても大丈夫だと言われて、久しぶりの学校に・・・一時間半かけて通学教室に着いた時にはクタクタで結果通えずリタイアしてしまいました。

それから、どれだけの年月がたつたでしょうか!?そう!!二年程たち車の免許取得しました!! 　　当時は車にナビ!?携帯!?ありません。

彼氏を初めて自宅まで車で送りそして初めての道を自宅に向かってもちろん一人で・・・ドキドキしながら、途中何故か、道に迷っているわけもなく心臓がドキドキ、ドキドキ苦しくなってきた・・・窓を開け、だんだん足の指先から、胃のへんまで身体がしびれてきて、パニック状態ふと後ろに車発見降りて事情を話病院に連れていって貰いました。ラッキーな事に女性二人そして助手席に乗っていた女性免許ありその女性が私の車運転してくれて、最寄りの救急病

院へ・・・ありがとうございます。実はその時名前も住所もお礼もできなかったんです。本当に今でもその時の事を思い出すと二人の女性に感謝しています・・・

医師に診察してもらいましたが、当時では、お年寄りがよくなる精神的な病気だと言われました。

でも、実はこれが最初の発病まだまだ現代の様に医学ではわからない、わからなかった精神病それも今から、10年前にはわかっていたでしょうか!?

過換気、パニック症候群

この症状はまた後程に。そうです、多分バイク事故一年前後だったある日右耳から何やら、変な音!?セミが鳴いているような、うーん!?テレビの終了時間何も映らなくなりザーザーと言う音みたいなの、耳鳴りです。急に・・・絶対事故の後遺症ですよね!?毎日毎日気がつけば、もう気になれば、イライラ、イライラ、その頃は毎日毎日の様に過ごしていたのか、実は全く覚えていないんです。ただ、ただ、苦しかった。いつしか、慣れてきたのか音!?耳鳴りに、何かしていれば、気にならなくなり、はっ!?!と思いつくと耳鳴りが・・・やっぱり、うるさいって感じなのですが、この耳鳴りで知らず知らず、病を引き起こすきっかけにもなっていたはず。

それから、6年が過ぎ、結婚、出産と育児をしながら、パートと目まぐるしく忙しい毎日を過ごしていたある晩のこと、疲れて、疲れて、眠くて、眠くてやっと寝床に入ってしまったという間に夢の中と思いきや、10分もしない内に目が覚め何やら、胸が高鳴るような苦しきで目が覚め、布団の中でじっとしていられず、飛び起きました。これが二度目の過換気症候群です。苦しくて苦しくて、息をしても、息が入って来ない様な苦しきで余計に空気を吸いすぎて、血管に確か・・・空気が入りすぎて、余計に苦しくなり、足の指先から、頭のとっぺんまでしびれてきます。こんな症状の時はこのまま死んでしまうと、パニック状態におちいります。とても苦しいです。

そんなとき、いつも、その頃車で15分ぐらいの所に両親が住んでいた。夜中2時、3時と構わず、母に電話をし、母の声を聞いて落ち着きを取り戻し、車で母の顔を見に行き、自宅に戻る、そんなこんなをどのくらい続けていたでしょうか!? 今思えば母も私に振り回されて、眠れない毎日を私のために、しばらく、付き合ってくれていたことに感謝しています。ありがとう、お母さん。余談ですが、母にお母さんにとても、会いたい・・・お母さん。またまた夜この頃は疲れて疲れて眠くて眠くてでも寝られません。心臓がバクバク息はあはあ!! 苦しい!! 母に電話して、いくらか落ち着き、車で実家へ、いつもなら、母の存在を感じ安心するのに、何故か、その日は、第二段心臓バクバク息はあはあ苦しい!! 近くの救急病院へ、やはり、その時も病名はとりあえずの自律神経失調症といわれ、睡眠薬を処方されました。先生に睡眠薬は飲めません。飲んだら、そのまま目が覚めず死んじゃうよ怖いと・・・先生は軽い睡眠薬夜中0時まで飲めば、朝方5時には目が覚めるからとにかく安心して、飲んで寝なさいと、言われました。その後実際は二回ほどしか、睡眠薬は飲めませんでした。それから、いろいろな精神科院を訪ねましたが自律神経失調症と言われ処方薬は一緒でした。どれぐらいの時間とかが過ぎたでしょう!? 1、2年たびたび寝れず、夜中に母に電話をしたり、外へ出て深呼吸したり、散歩して気を回している内に気がつけば、普通の生活に戻ってました。子供も成長し、縁あって、事業を始めることになりました。順調に仕事も上手くいき、また忙しい毎日を過ごしていました。事業を始め2年ほど、過ぎた頃でしょうか!? 第三段のそれはそれは一番苦しい日々を送るなど考えてもいかなかったほど穏やかな日々を過ごしていました。今までは、夜中に苦しくなり、寝ていられない、この時ももちろん辛かった事ですが、今回は朝、昼、夜と構わずいきなり、胸がバクバクし、苦しく手足がしびれてきて、死んじゃうとパニックをおこし、頭の中には病院に行かなくては、しかないんです。そして、その頃は病院近くの救急病院、病院の診察カードを何故か、

いつもと違う病院に気がついたら、電話してました。その頃には携帯もあり、とにかく病院に行く事しか頭にないので、車を運転しながら、電話してました。病院に到着し、苦しくて苦しくて泣きながら、呼ばれるのを待っていた気がします。と看護婦さんに声をかけてもらい、やっと診察室に、血圧をはかり、多分過換気かな!？と先生が・・・一応血液でも調べておこうね。他の病気もあるからとしばらくして、やっぱり血液中に酸素が多すぎで苦しく手足しびれるんだと言われたその時が初めて病名を私自身が知った瞬間、そして、先生は注射を打ってくれました、5分たったか、もう少したっていたのか、あの苦しみが、嘘のように、いつもの、自分に戻ってました。さっきまでの自分は!？と、驚くぐら、穏やかな自分に・・・でも治ったわけではないんです。その後もどれだけ、病院に駆け込んだかわかりません。電車にも乗れなくなりました。外でトイレも入れません。戸を閉めては入れないんです。一人でいることもできなくなりました。一人でいて何かあったら、怖い胸が苦しくなったら、と怖くて怖くて、それは大変な毎日でした。たくさんの人に迷惑をかけました。そんな中でも事業を始めてしまっていたので辞めることができずひどい時は毎日朝一番に病院で点滴をもらい、仕事してました。辛かったです。怖かったです。現在は安定剤を処方してもらい、未だにのんです。毎日。まだまだ、話していない事がありますが・・・また少し落ち着いたら、私の未だに完治していない、詳しい過換気の苦しさ、他の治療中、二つほどの辛い別れ等々投稿させていただきます。闇の中の自分2で・・・

## 完治できない病（後書き）

読んで頂いてありがとうございます。伝わりましたでしょうか！  
もう一度闇の中の自分2を投稿させていただきませう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1422i/>

---

暗闇の中の自分

2010年12月16日03時18分発行